

伝法駅(阪神なんば線)①

樽廻船、菱垣廻船の基地・伝法を歩く

千鳥橋駅(阪神なんば線)

「大阪あそびマップ集」
その1 No.006

阪神伝法駅

〈伝法船・樽廻船・菱垣廻船〉安治川が開削される以前は中津川河口の伝法が大坂湾の玄関口でした。江戸時代初期、ここから伝法船で江戸へ、伊丹の酒を船底に、その上に醤油・酢・塗り物・紙・木綿・金物・畳表などの雑貨品を積んで運びました。酒樽は大きさを四斗樽に統一したので、積み出しが簡単で船足が速いので、小早とも呼ばれました。これが発展して樽廻船になりました。一方、雑貨専用の船で側舷に菱形のマークのある船を菱垣廻船と呼びました。

①日本鑄鋼所跡(伝法小学校)

日本鑄鋼所は住友金属工業の前身で、わが国初の本格的な平炉をもつ製鉄所でした。日清戦争後に国内重工業が発展し、鉄鋼需要が高まる中、明治32年(1899)に鴻池組によって建設され、明治40年(1907)までこの地にありました。小学校校内に碑があります。

②瀧標住吉神社

延暦23年(804)遣唐使の航行安全を祈願する祭壇が設けられ、目印の瀧標を立てたといわれます。江戸以降は、伝法の守護神、航行の神として整えられていきました。



③鴻池組旧本店・旧住宅

明治になって鴻池忠次郎が伝法にて建設業と運輸業の鴻池組を始めました。淀川改修工事に携わって鴻池組が成長したとされます。旧本店は明治43年(1910)に建てられたモダンなアールヌーボー様式で、旧本宅はその前年に建てられた町屋風の建物です。



④鴉宮

港と村の守護神として傳母頭神社がありましたが、秀吉が朝鮮へ出兵したとき、安全を祈願すると、八咫鳥が現れて軍勢を守

ったということです。これに感激した秀吉が神社名を鴉宮と改名し、現在地に遷宮しました。鴉宮本殿、拝殿、中門および透塀は、国の登録有形文化財。



⑤森巢橋

文久3年(1863)備前藩によって架橋されたとき、傳母頭神社の名前を残すために名づけられたといえます。かつての中津川の支流にあたる正蓮寺川に架かっています。正蓮寺川は改修されて河底に道路が建設されています。かつてはこの正蓮寺川から分岐して伝法川が大坂湾に流れていました。その河口が伝法の港です。

阪神千鳥橋駅

